

平成31年度 学校評価計画表

教育目標		総合学科高等学校教育の特色を継承し、一人一人の生徒の個性に適切に対応し、「自分らしさ」を育てる教育を展開する。							総合評価	
運営方針		<ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神を培い、自他敬愛と協調性を基盤とした人間関係の醸成に務め、明朗で思いやりのある生徒を育成する。 ・生涯学習の基礎を培う観点に立って、基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせ、主体性や創造性に富んだ個性豊かな生徒を育成する。 ・教育活動全体を通じて人間としての在り方・生き方を追求し、集団の一員として自覚をもって主体的に生き抜く行動力のある生徒を育成する。 ・国際的な視野を広め、国際社会に進んで貢献できる生徒を育成する。 								
30年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標					
<p>平成30年度は、年次内での学力差に対応するために年次横断の習熟度別講座を設定したり、授業内容の精選や授業展開の工夫、日頃からの補習に加え審査前の特別学習期間を有効に使い、成績不振者に対する補習の徹底に取り組んだ。その結果、成績不振者数及び科目数は半減した。しかし、家庭での学習の定着度には変化がなく、この現状を改善するのが課題である。また、学校運営協議会に関しては、保護者及び地域の方々から学校行事や部活動の応援などを含め、本校教育活動の全般にわたって協力が得られたが、今まで以上に協力体制を整えていかなければならない。インクルーシブ教育も4年目を迎え、教員間の連携も密になってきたが、仮設工事が完了し、分教室がスムーズに復帰できる環境と体制を構築する必要がある。</p>		・教職員の共通理解を深め、組織としての機能性と機動性を備えた体制づくりを行う。			建学の精神、校訓や山高のモットーに基づく教育活動を推進する。「夢を育む学校」、「部活動が活発な学校」、「地域に開かれた学校」を創造する。					
		・生徒の習熟度に応じた指導体制の充実を図り、学習意欲と基礎学力の向上を図る。			評価の観点を「結果重視」から「過程重視」へとシフトする。成績不振生徒に対する徹底指導を行い、学習意欲と基礎学力の向上を図る。					
		・生徒の主体性、自律性を育成する生徒指導を推進する。			時間厳守、正しい言葉遣い、身だしなみなどの基本的な生活習慣を身につけさせる。自ら社会や学校のルールを遵守する態度を養う。					
		・インクルーシブ教育の推進と、人間尊重の視点に基づく人権教育の指導体制の確立を図る。			本校生徒と高等養護学校分教室生徒との交流及び共同学習を通じて、互いの多様性を認め尊重しあい共生社会の形成者としての資質と人権感覚を身につけた生徒を育成する。					
		・生涯にわたって運動を楽しみ、自らの健康を維持できる実践力と忍耐力を育てる。			運動・スポーツに主体的に取り組む実践力を養う。生徒が部活動に積極的に取り組む学校作りを行う。					
		・進路希望の実現のために、キャリア教育の充実を図り適切かつ積極的な進路対策を行う。			進路希望調査の実施により進路目標を早期に確定させ、進路実現に向けて有効な進路指導を行う。					
評価項目	主担当 分掌等	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
					自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
学習指導	教務部	生徒が「自ら考え」「自ら学ぶ」ことを大切にし、学校での学習はもとより、日頃からの家庭での学習習慣をしっかりと身につけさせる。	基礎的な知識、技能を習得させ、学んだことを活用する力を育むため、日々の1時間1時間の授業を大切にするとともに、復習を中心とする家庭における学習の定着を図る指導を行うため、課題等の内容の精選をする。	年間2回の授業アンケート実施により、生徒の実態を把握し、それぞれの授業に対する意欲や満足度、予習復習の定着度を1回目より向上させ、全体で60%以上を目指す。						
		授業改善や観点別評価の導入に向けて、評価方法の改善に向けて、多様化する生徒に対応できるように学科やコースの魅力や特色を出せる教育課程の研究を行い、魅力ある学校づくりを目指す。	授業改善と学校独自の観点別評価の本格的実施に向け、教育課程編成委員会及び教科会議を年5回以上開き、多様化する生徒の確かな学力の育成と特別支援教育の充実を図る教育課程の編成や評価方法の検討を行う。	クラス間・生徒間にかかなりの学力差があることも踏まえ、生徒個々の能力を伸ばす目的で、基礎学力定着のための習熟度別少人数講座の充実をはかり、また生徒の進路実現のための満足度達成60%以上を目指す。						
		成績処理・教務事務処理に関するシステムの見直しとマニュアル化をより一層進める。	時間割作成、成績処理、指導要録などの電子処理の一層の充実と、それを使いこなすための研修を年間3回以上実施するとともにマニュアル化が必要なものについては、誰でもできるを考え、文章化を試みる。	各処理に関する分掌内での情報共有と出席管理、通知票、成績一覧表、指導要録の作成については全職員の60%以上の習得を目指す。						
生徒指導	生徒指導部	ボランティア精神の醸成	生徒会活動に関する年間計画を作成させ、生徒会役員を中心とした生徒による自主的なボランティア活動を行う。	年度末のアンケートにより、ボランティア活動に積極的に参加したとする生徒が80%以上となることをめざす。						
		部活動の活性化	部活動に参加させ生徒に運動や文化的活動に対する興味関心を持たせる。	部活動見学や体験的入部の機会を設け、部活動に参加しやすい環境を整備する。部活動(同好会)加入生徒80%以上を目指す。						
		規範意識の向上	学校生活や社会生活に必要な規範意識の向上を図る。	頭髪、制服等の指導の徹底、登下校指導による乗車マナーの向上。全員が声を出して挨拶できる人間育成を目指す。						
キャリア教育	キャリア教育部	キャリア教育の充実	進路目標を設定し、その実現に向けて自ら主体的に行動ができるように、HRや進路行事等を通して適切な情報とアドバイスを提供する。	アンケートにより、進路関連情報の提供に満足したとする生徒・保護者が80%以上となることを目指す。						
		進路の実現	進路実現に向けて就職、進学ともに進路HRや放課後及び休業中の指導等計画・実施する。	アンケートにより、進路指導に満足したとする生徒・保護者が80%以上となることを目指す。						

	主担当 分掌等	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
					自己 評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・ 分析)及び改善方策
人権教育・特別支援教育	人権教育部	人権教育の充実	人権ホームルーム年間計画に基づいたホームルームおよび各種学習会を実施するとともに、新たな人権課題に対しての取組を始める。日々の生活の中に人権意識を啓発するようなトピックの提示に努める。	アンケート等によって、「自らの人権意識が高揚した」「学校生活において人権が尊重されている」と実感できた生徒が75%以上を目指す。						
		職員研修の充実	人権にかかわる研修を実施し、個別に研修が出来る環境を整えるとともに、教職員個々が自らの興味関心に従って自主的に研修を進めることが出来るような機会を提供する。	教職員の一人一人が、人権や進路に関する定例の研修に参加できることを目指す。また、個別に研修が受けられるよう情報提供する。						
健康・安全管理	総務部・保健体育部	防災意識の高揚	消防・防災計画を職員間で共通理解を図り、火災・震災・その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図る取組を行う。	職員及び生徒の防災意識の高揚を図るため、年1回以上の防災・避難訓練及び職員研修を行い、防災・避難訓練の周知徹底を行う。						
		救急体制の強化	救急体制を整備し、教員間での共通理解を図る。危機管理対策として、必要な備品や消耗品を揃えるとともに、資料や情報を提供することで注意喚起する。	教員に対して年3回の研修を行い、緊急時や傷病への対応の共通理解を図る。生徒を対象とした集会を年2回以上実施する。時期にあった情報や資料を掲示する。						
		自他の心と体の健康管理に関心を持ち、積極的に健康づくりを実践する力を育成する。	定期健康診断結果、保健室やスクールカウンセリングの利用状況等、個別指導ができるよう資料提供の充実を図る。また、スクールカウンセラーの周知のため、職員室に机を設置、カウンセラー室の開放、保健室に在中、廊下等校舎内の巡視などを行い、積極的に生徒や教員と交流の場をもつ。	健康に関する意識向上のため、ほけんだよりを月1回以上発行する。また、カウンセラーだよりも不定期発行する。学校保健委員会を年1回開催する。カウンセリング後のカウンセラーによるコンサルテーションを関係教員に行う。また、研修会の場を積極的に設ける。						
農場経営	農場経営部	生物科学科にふさわしい農場運営	生物科学科(植物類型・動物類型)の専門科目の内容に対応した教材提供の場として農場の充実を図る。植物部門の栽培管理の適切化・動物部門の飼育管理の適切化を目指して管理技術の向上を図る。	生徒の授業・実習に対する満足度を授業アンケートで70%以上にもっていく。農場の生産物収入を150万円以上とする。						
		地域交流活動と農業クラブ活動	学習活動の成果や農場生産物を地域に還元したり生徒のボランティア意識を高めるため、地域交流活動を実施する。農業クラブ活動を活発に行う。	保育園・小学校との交流活動を年2回以上実施する。草花プランターの近隣公共施設への配付および交流センター玄関前庭への草花植え付けを年2回以上行う。						
広報・渉外	総合企画部	本校の学科および取組の周知	改編した学科の内容および学校独自の取組について、県内の中学校にPRする。オープンキャンパス(学校説明会)を、全職員で取り組むようにし、より充実させる。	50以上の中学校に、全職員が協力して訪問し、学校の説明やPRをする。体験入学に参加した中学生にアンケートを実施し、満足できたとする生徒が80%以上になることを目指す。						
		総合学習発表会の実施	総合学習発表会をさらに充実して実施する。各年次のIS(総合的な学習の時間)だけでなく、各学科・コースの様々な授業の取組を発表できるようにする。	総合学習発表会でのアンケートを実施し、満足できたとする生徒が80%以上となることを目指す。新しい企画を取り入れていくなど、全職員・全校生徒で取り組み、内容を充実させる。						
		学校情報の発信	学校の魅力や特色ある取組、また部活動等の情報を、新聞・テレビ等のメディアを活用して積極的に発信する。さらに、学校ホームページを活用する。	年間で6回以上、本校の教育活動がメディアに取り上げられることを目指す。学校行事ごとにホームページを更新し、新しい情報を発信する。部活動の活動報告を、大会ごとに発信する。						
学校事務	事務部	生徒・教職員の安全に支障をきたす箇所 の修繕・改修に努める。	四半期に1回、校内巡視・安全点検を実施し、不良箇所については、速やかに対応する。							

評価項目	主担当 分掌等	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
					自己 評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・ 分析)及び改善方策
第1年次		互いを認め合いコミュニケーション能力を高める。自分の良いところを自覚させ、高校生活において、充実感と達成感を得る。	挨拶を奨励し、整った身だしなみや言葉使いが自発的にできるように注意喚起する。学校行事へ積極的に取り組ませる。	年次末アンケートにより、「挨拶」の項目において、できた・ほぼできたの合計が90%以上を目指す。						
		生活習慣を整え、自分の進路について思いを至らせ、行動につなげる。	生徒の状況を把握し環境整備に努める。欠席や遅刻をできる限り減らし、基本的な生活習慣を確立させる。1年後、2年後、その先を考えさせることで、今、何をすべきか気付かせる。	教育環境を常に点検する。年次全体の出席率95%以上を目指す。キャリア教育HRでの取り組み状況を点検する。						
第2年次		進路実現に向けての日常生活のあり方を模索する	2年生というこの時期に、進路実現のために何ができるか、やらなければならないのかを把握し、計画立った学習や経験の積み重ねができるようにする。	ホームルーム・集会で、随時このことに触れ、進路実現について、意識的に考えることができる生徒にする。アンケート等で生徒の意識の変化、生活の変化などについて問い、回答から評価する。						
		他人と言葉を交わし、一つの方向を決め、行動する	グループでの学習や取り組み、修学旅行での班ごとの行動など様々な活動の中で、自分の言葉を発し、集団での一つの行動を決定していく場面に多く立ち会うこと。そのような機会に際し、良好に対処できるようにする。	人間関係における言葉のやりとりについて、生徒が感じていることをつかみむ。また、日頃の行いや年間を通して感じた変化を年次末に問い、回答から評価する。						
第3年次		第一希望進路を実現する	ホームルームや授業などを通して、安易な進路決定をしないように指導する。また、自分の進路決定後も、周りの生徒への気遣いを忘れず、最後の一人が決まるまで配慮させる。	年次末アンケート「進路実現」の項目において、できた・ほぼできたの合計が90%以上ならA。						
		最高学年として下級生の模範となる	さまざまな学校行事や活動に、積極的に取り組ませる。挨拶や言葉づかい、身だしなみなどを自発的にできるようにする。欠席や遅刻をできる限り減らし、基本的な生活習慣を確立させる。	年次末アンケート「挨拶や言葉づかい、身だしなみを自発的にする。」の項目で、できた・ほぼできたの合計が90%以上ならA。年次全体の年間出席率が95%以上ならA。						

【自己評価の判断基準】

- A: 十分である(よくできた)【目標値の達成率80%以上を目安とし総合的に判断する。】
- B: ほぼ十分である(できた)【目標値の達成率65%～79%を目安とし総合的に判断する。】
- C: あまり十分でない(あまりできなかった)【目標値の達成率50%～64%を目安とし総合的に判断する。】
- D: 改善を要する(できなかった)【目標値の達成率50%未満を目安とし総合的に判断する。】